

第28回県協連総会集約

労働大学まなぶ友の会全国県協連絡会議
副会長 吉田 英和

11月18日から19日にかけて18県協20人の県代表者、傍聴者として17人が参加し、のべ22人の発言で、22年度総括および23年度方針を補強していただきました。皆さんの発言の中から私が掴んだものを紹介し、最後に集約をします。

西部県協：田口さん

地下鉄OB会を立ち上げ、168回の「地下鉄まなぶ交流会」を行った。コロナで停滞したが世話人会を開催しOB会のレクまでこぎつけた。OB会42人からまなぶ誌拡大につなげていきたい。

埼玉県協：矢島さん

埼玉県協は15友の会44人の会員、現在165部を扱っているが7部減となった。浮き部数の問題が如実に表れている。第一学習会を支えあう討論で闘いの砦にしていきたい。そのためには共通するテーマである健康の見直しのメモ化によって会員間で共有する。目的をはっきりさせる必要がある。久しぶりに二日間で行われる第29回全国交流集会を受け入れる関東ブロックとして楽しみにしている。

中部県協：古城さん

友の会の仲間づくりは、仲間の話を受け止めることであることを学んだ。ズレや温度差は討論をすることで理解できる。6ブロック問題について、3ブロックへの県協連の働きかけは成果。

北部県協：景山さん

北部県協家族交流会に娘を誘った。これまで発作的で義務的な声掛け程度だったが、自分がやってきた友の会の仲間とも交流をしてほしいと誘い、二人の娘と孫二人が参加してくれた。病気を患う夫の問題を家族で乗り越えるために、目指す方向が娘たちと一致したように思う。夢は娘たちと第一学習会に参加すること。

南部県協：渡邊さん

鎌田同志の死は無念。南部県協は「報告連絡相談のハウレンソウ」の強化が課題である。連絡次第で組織は無くなる。



東部県協：芳賀さん

参加者に合わせて第一学習会の時間を設定している。連絡は前日に行く。亡くなった会員の家族を中心に家族ぐるみ交流会復活していく。協力して参加できていない仲間にかかわっている。「夫が作る本」であること、自分の記事が載った本を渡して有料化できた。やはり声掛け！近くにいる人に！

高知県経：松岡さん

四国ブロック女性講座に高知から4人が参加した。4人を核に女性活動強化につなげていきたい。

香川県協：三木さん

河西姉妹と事務局長になった井角清さんの成長は大きな成果。拡大誌を渡して8年、やっと拡大できた。拡大に向けて月に4・5回訪問する。少しでも会って話をしたい。継続が力だ。

徳島県協：大西さん

友の会員を拡大し嬉し泣きをした。社青同の班会に責任を持って入り、両輪となった運動を進め、会員拡大につなげていきたい。

東部県協：柳沢さん

コロナが終息していない状況の中でも、各友の会が第一学習会を継続開催できたことは大きな成果。会員を辞めたから付き合いを無くすのはでなく、三カ月に一回程度、

様子を見に行く努力を続けている学習会がある。人間的な絆、信頼関係の継続。友の会運動を継続していくことが闘い。

中部県協：中村さん

どういふまなぶ講演会にしていこうか仲間と議論をする。やり続けられていることは成果。会員全員が退職者となった。月1回集まり目的意識的に交流をしている。広い範囲での五人組、職場の仲間たちとの交流は力になっている。

茨城県協：小峯さん

市民運動、政治闘争を行うことにより拡大に繋がっている。読者との心のつながりを重視。アンテナは高く拡大誌を活用して働きかけを行っている。「展望は取り組み次第」だ。

埼玉県協：小林さん

有休をとって昼間に第一学習会。古典を学んでいる。93歳の会員も拡大に向けて現役教員とのかかわりを求めている。岸さんが専従になり、メモ化したもので働き方が見えてきた。支える体制を取っていく。新たな学習会づくりは課題である。

徳島県協：高開さん

30代の元職場の仲間とまなぶ学習会を行っている。教えてやる学習会になっていたのではないかと。徳島県協では新しい友の会が誕生した。同盟員、党員であったため、信頼関係を積み上げてきたが、最後は県協四役総がかりでオルグしようとなり友の会の誕生となった。

千葉県協：秋島さん

菊地さんが県協会長を担ってくれることになった。任務が人を変えたように能力を発揮している。なんとなくの活動、退職してからまなぶの必要性を失っていたのかもしれない。目標・目的を持っていくために友の会は必要。

千葉県協：菊地さん

昨年12月に県協会長になった。小林組織担当が四役会議に入ってくれたことが大きい。コロナ禍でも四役会、取組みは継続できた。『月刊まなぶ』は他にないテキスト。お互いが学びあうことが大事。

埼玉県協：荒畑さん

もう一人の仲間づくりは全部が全部うまくはいかない。読者会でしゃべらないけれど必ず来てくれる女性がいた。信頼関係を積み上げていくことによって話してくれる

ようになった。目標を決めて仲間と取り組むことは楽しい。

熊本県協：高山さん

会員五人で県内唯一の友の会。毎月第三木曜日行っている。健康チェックを読み合わせている。なぜ辞めないのか。唯一家庭の話ができる場所だからだ。これがないと自分が持たない。拡大の展望、人と接触できる場所を組織していきたい。

兵庫県協：森山さん

県協四役みな高齢化している。若い人が入らないのは何か原因がある。自然消滅の危機。定年後にユニオン委員長になった。20年たってやっとまなぶの話が出せるようになり、まなぶ講演会に来てくれるようになった。

東部県協：芳賀さん

無理やりや押しつけでは読者は増えない。

三多摩県協：渡辺さん

南部さんや高井さんが入ってくれていたのが会員になるきっかけ。拡大するのは難しいが、交流の中で組織していきたい。交流が力になる。

集約

コロナ禍で非常に困難な時期はあったものの、私たちはまなぶ友の会運動＝大衆学習運動を継続することができました。仲間づくりは一朝一夕にはいかないけれど、第一学習会で仲間たちとの討論を継続し、方針・目標を立てることによる粘り強いかかわりが、信頼関係を積み上げ、成果は必ず現れることを確認しあい、学びあえる総会であったのではないのでしょうか。高齢化など組織的な課題は多いものの、第一学習会での相互討論が『月刊まなぶ』拡大運動に、家族ぐるみのたたかいに、仲間づくりに繋がりが、資本の攻撃に負けない闘いの砦になっています。

今総会で確認した方針を取組み、5月25日～26日に千葉県成田市で開催される第29回全国交流集会に中間総括を持ち寄ります。

